

TOPICS

1

「林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン」の第2回構想検討委員会を開催



真庭市は、産学官連携で木造建築技術に関する高等教育・研究や人材育成を推進し、地方創生や新技術、新たな木材需要の喚起につなげる「林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン」の創設に向け、本学を中心とした関係機関と連携して検討委員会を令和2年度に立ち上げました。7月26日、真庭市で第2回構想検討委員会が開かれました。

委員会には、共同代表の太田昇真庭市長、榎野博史学長をはじめ、建築家の隈研吾氏（本学特別招聘教授）、沖陽子岡山県立大学長らが出席。榎野学長は「各大学の垣根を越えた人材育成と、木質建築の研究開発のための施設の共同利用について意見交換し、構想を進めたい」とあいさつしました。出席者からは「2050年カーボンニュートラル実現に向け、木材の重要性が高まっており、本構想へ追い風が吹いている」、「岡山大学グリーンSTI拠点（仮称）が窓口となることで、企業・大学任せではないより実践的なインターシップが実現できるのではないか」といった意見が寄せられました。委員会後は、隈氏が設計を手がけたGREENable HIRUZENを視察しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10427.html



TOPICS

2

新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種を開始

本学は7月9日、文部科学省が進める、大学等における学生・教職員等を対象とするワクチン接種（大学拠点接種）を開始しました。初日は、本学の学生・教職員670人に接種を行いました。

榎野学長は、教職員・学生スタッフに対し感謝の言葉を述べるとともに、「大学拠点接種を行うことで、地域のワクチン接種にかかる負担を軽減し、ワクチン接種の加速化を図ることができる。今こそ地域の皆さんに頂いたご恩に報いる恩送りの時である」と抱負を述べました。

ワクチン接種では、コロナ禍における学生への経済支援として、運営スタッフに学生や有資格者の大学院生を86人雇用し、教職員監督の下、日々22人を配置して運営しています。また、既に調査を実施したファイザー製ワクチンと比較する、モデルナ製ワクチンの副反応調査を実施し、新型コロナウイルスワクチンの正確な情報を発信していくこととしています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10394.html



Pick up!

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました

6月30日、本学の数理・データサイエンス教育の取組の一部が、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。

この認定制度は、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携して設けられ、大学等の正規の課程であって、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものです。

岡山大学は、令和元年度から「文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム」を展開しており、この度の第1回目認定において、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」11校のうちの1校に認定されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10385.html



TOPICS

3

学生2人が日本代表団の一員として「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World 2021ミュンヘン大会」に参加

グローバル・ディスカバリー・プログラム4年の津山家野さんと文学部3年の出口杏奈さんが、ドイツ連邦共和国・ミュンヘンで7月22～25日にハイブリッド開催された「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World 2021ミュンヘン大会」に日本代表団の一員としてオンライン参加しました。

本学は、2015年開催のタイ・バンコク大会からOYWの国立大学初の公式パートナーとして参画し、毎年2人の学生代表と、オブザーバーとして横井篤文 学長(特命(グローバル・エンゲージメント戦略)担当)・ユネスコチェアホルダー、兼一般社団法人One Young World Japan Committee理事を派遣しています。

津山さんと出口さんは、4日間にわたり全体セッションやワークショップ、ネットワーキングなどに参加。それぞれの社会課題に関するセッションを通じ、ニューノーマル時代のSDGsの在り方、および次世代のリーダーシップの在り方とその実践の方法、SDGsの達成や世界が抱える課題解決などに向けて、活発な議論を重ねました。2022年東京大会は来年5月下旬に開催予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10433.html



会場およびオープニングセレモニーの様子
(One Young World Japan フェイスブックより)



TOPICS

4

環境理工学部「水域環境管理学」講義と米務省重要言語奨学金(CLS)プログラム」夏期オンラインコースが合同授業を実施



本学グローバル人材育成院が6月15日～8月7日の期間で実施している「米務省重要言語奨学金(CLS)プログラム」夏期オンラインコースでは、7月3日に環境理工学部の講義「水域環境管理学」(授業担当: 中嶋佳貴 学術研究院環境生命科学学域 助教)とコラボレーションし、ビオトープや環境保全活動、SDGsに関する合同授業を行いました。

1時間目は、水域環境管理学の履修者により、「ビオトープ」「水質調査」「蛍プロジェクト」をテーマとした発表を実施しました。学内ビオトープ池と教室をリアルタイムの中継でつなぎ、環境理工学部の受講生が胴長靴姿で池の中に入って水生植物の説明をしたり、蛍の餌となるカワニナを見せたりする試みも見られました。2時間目は、CLSの学生たちが決めたSDGsに関するテーマについて、事前に考えた質問を本学学生にインタビューし、ビオトープや自然環境保全について日本語で理解を深めました。オンラインであっても日米交流の機会を得られ学術的にも有意義な時間となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10390.html

PRESS
RELEASE

「忘れ貝」可憐な新種とそのゆくえ 万葉集・土佐日記にいう貝たちの「もののあはれ」と「鎖国の名残」

学術研究院環境生命科学学域(農)の福田宏准教授、大阪市立自然史博物館の石田惣主任学芸員、西宮市貝類館の渡部哲也学芸員、香川県水産試験場の吉松定昭元場長、国立科学博物館の芳賀拓真研究員の共同研究チームは、従来分類が極端に混乱していた日本周辺産ワスレガイ属(*Sunetta*)貝類の網羅的な分類学的再検討を行い、3新種(現生:ベニワスレ、化石:モシオワスレ・シチヘイワスレ)ほか5種(タイワンワスレ・シマワスレ・ランフォードワスレ・ワスレガイ・ミワスレ)の計8種を認知して、それらの種の実体、定義、識別点、分布域等を初めて明確化しました。現生種のうちミワスレを除く5種は日本周辺に固有で、それら全てが浅海環境の悪化によって減少傾向にあるか、またはもともと産出例の少ない稀少種と判明しました。

本研究成果は7月14日、日豪共同刊行の軟体動物学雑誌「*Molluscan Research*」にオンラインで掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id852.html



福田准教授

